

## 学則の変更の趣旨等を記載した書類

### a 学則変更（収容定員変更）の内容

工学部デジタルエンジニアリング学科（入学定員 75 名・3 年次編入学定員 2 名）の学生募集を平成 26 年度に停止し、当該学科の定員及び教育課程を、総合システム工学科内に移行する。

### b 学則変更（収容定員変更）の必要性

本学は、「ものづくり」の現場において技術の複合化やシステム全体を総合的に考える技術者の養成が必要であることから、工学部の機械システム工学科、電気電子情報工学科、環境建設学科の旧 3 学科を改組転換し、平成 21 年度に総合システム工学科を設置した。また、本学工学部が立地する北九州市及び京築地域は日本でも有数の工業地帯（資料 1）であり、近年では自動車産業とその関連企業の進出が著しく増加したことから、地域社会並びに産業界のニーズに応えるべく、機械システム工学科を基礎に、電気電子情報工学の要素も合わせたデジタルエンジニアリング学科を同じく平成 21 年度に設置し、現在の 2 学科体制となった。

総合システム工学科は、総合的な工学教育と、機械工学、電気電子工学、情報システム、環境建設からなる専門分野を教授することを趣旨に教育研究活動を展開し、開設年度は定員を充足することはできなかったものの、次年度以降は順調に志願者数を伸ばし、安定した入学者を確保している（資料 2）。

一方、デジタルエンジニアリング学科は、全学をあげての広報活動による学科名称及び教育研究内容の周知と、平成 22 年度に文部科学省から選定された「大学生の就業力育成支援事業」による実践的技術者教育の導入、さらにその事業から派生して実現した日産自動車九州㈱との産学連携（資料 4）による実践教育プログラムの導入等で入学者の確保に努めた。しかしながら、設置から完成年度までの定員充足率の平均が 0.7 倍以上を充たすことができず（資料 2）、設置計画履行状況等調査結果でも定員充足率による留意事項が付された。

以上の事由から、平成 26 年度を以てデジタルエンジニアリング学科の学生募集を停止する。しかし、当該学科の第一期生の就職率は希望者比で 96.7%（就職希望者で未就職者 1 名）を達成しており、上場企業にも複数就職した実績から、産業界のニーズは高いことが実証できた。また、当該学科は開学して 5 年間で受験生等に対する認知度を確立することはできなかったが、産業界からの理解と潜在的な期待感が強いことから、当該学科の定員及び教員並びに教育研究内容は引き続き総合システム工学科で継承することとした。なお、デジタルエンジニアリング学科は、機械工学、電気電子情報工学を融合して創られた学科であり、当該学科の内容等を総合システム工学科で継承することにより、総合システム工学科の設置趣旨に変更をきたすことは一切ないとする。また、総合システム工学科にデジタルエンジニアリングの教育研究資源を入れることにより、本学が目指す技術の複合化やシステム全体を総合的に考える技術者養成教育の深化充実が図られることを計画している。

① 入学定員（編入学定員を含む）設定の考え方とその根拠となる学生募集の見通し

資料 2 に示すように工学部全体の入学定員は、平成 22 年度から 24 年度までは、ほぼ充足できている。また、平成 25 年度においては、工学部全体では定員を充足することはできなかったが、総合システム工学科の志願者数はほぼ前年度の数を保っている。さらに、工学部のおばせキャンパスは、本年 3 月にリニューアル工事が完了し、施設・設備・環境面でキャンパスアメニティーが向上し、入学志願者数の増加が期待できる。以上のことから、デジタルエンジニアリング学科の入学定員 75 名を総合システム工学科に移行する。

デジタルエンジニアリング学科の編入学定員 2 名については、短期大学や他の学部を卒業した者等の受入のほか、本学は社会人特別入試を設けており、編入学を希望する社会人もいることから、幅広く学びの機会を提供することを趣旨に、引き続き定員を維持する。

また、工学部総合システム工学科の分野による志願動向であるが、リクルートホールディングスが調査した「2012 入試実態調査大学・短期大学」の抜粋（資料 5）でも示されているように、平成 23 年度から理工系大学の志願者数は顕著に伸びている。また、工学部における同分野を有する近隣他大学の併願動向であるが、資料 3 のとおり本学と同県内の福岡工業大学、九州産業大学及び福岡大学が多く、国・公立大学法人では大分大学及び北九州市立大学が多い。この併願動向は、本学の都道府県別志願者動向（資料 3）とも連動しており、本学を志望する受験生の大半は、福岡県及び隣接する大分県に集中していることが分かる。なお、前述の本学志願者との併願が多い大学は、何れも本学より規模が大きく、教育研究内容や施設設備も充実した大学であり、本学としては単科大学のスケールメリットを活かし、開学から実践している「きめ細かい教育」の更なる深化充実と、キャンパスの立地を活かし産業界との連携を通じた実践的技術者教育の推進等により差別化を図りたい。また、近年は経済状況から自宅通学を希望する受験生も増えており、本学としては地元地域からの入学者確保のさらなる強化に向け、地域に志向した教育、研究、社会貢献を推進すると共に、成績優秀者に対する奨学生制度の他、平成 25 年度入試から経済的支援を主旨とした奨学生制度を導入し、経済的困窮者に対する大学進学機会の提供にも努めている。

② 卒業後の進路と養成する人材を受け入れる側の需要

本学は 18 年間、常に 90%以上の就職率を維持している。また、毎年 1,000 社を超える求人があり、学内で毎年開催する学内企業セミナーにも 100 社を超える参加企業がある。今年の工学部の就職率（希望者比）も 98.4%（資料 3）を達成しており、この数字からも本学工学部の卒業生は産業界からの人材的ニーズがあることを証明している。また、前述のとおり、本学の工学部は自動車産業をはじめとする製造業が集積する地域（資料 1）に立地しており、地域社会からその人材供給が求められていることと、平成 22 年度「大学生の就業力育成支援事業」に選定された際に設立した「地域人材育成機構」（資料 6）により、地域社会や産業界、自治体等からの意見も踏まえ、地域産業界のニーズにあった人材の養成にも取り組んでいる。さらに、平成 24 年度から北九州市と北九州活性化協議会の支援のもと、地元の九州工業大学、北九州市立大

学，北九州工業高等専門学校と本学とで，北九州地域産業人材育成フォーラム（資料7）を結成し，学生に対する地元企業の紹介や，地元企業へのインターシップの推進に取り組み，学生の地元企業への情報提供と就業意識の涵養に努めているので，平成25年度以降は従来の就職先に加え，さらなる地元企業への就職拡大が期待できる。

c 学則変更（収容定員変更）に伴う教育課程等の変更内容

・教育課程の変更内容について

本学の教育課程表は，総合共通科目，基礎科目，基礎専門科目及び専門教育科目で構成されており，総合システム工学科の専門教育科目群にデジタルエンジニアリング学科の専門教育科目を加え，機械工学，デジタルエンジニアリング，電気電子工学，情報システム及び環境建設の5つの専門教育科目を配置する。

・教育方法及び履修指導方法の変更内容について

今回の学則変更による履修指導方法の変更はないが，特に本学では，開学当初から学生を少人数に分け，全教員で学生個々人の指導，助言を行う「ガイダンス制度」を導入しており，履修指導についても各ガイダンス担当教員により手厚く行っている。

また，工学部においては平成25年度から，工学実験を1年次の必修科目として開講し，機械工学・電気電子工学・情報システム・環境建設・デジタルエンジニアリングの各専門に関する実験を半期で全て体験できるようにしており，幅広い工学知識と工学に対する興味，関心への涵養，専門分野の理解と選択に繋がるよう工夫している。

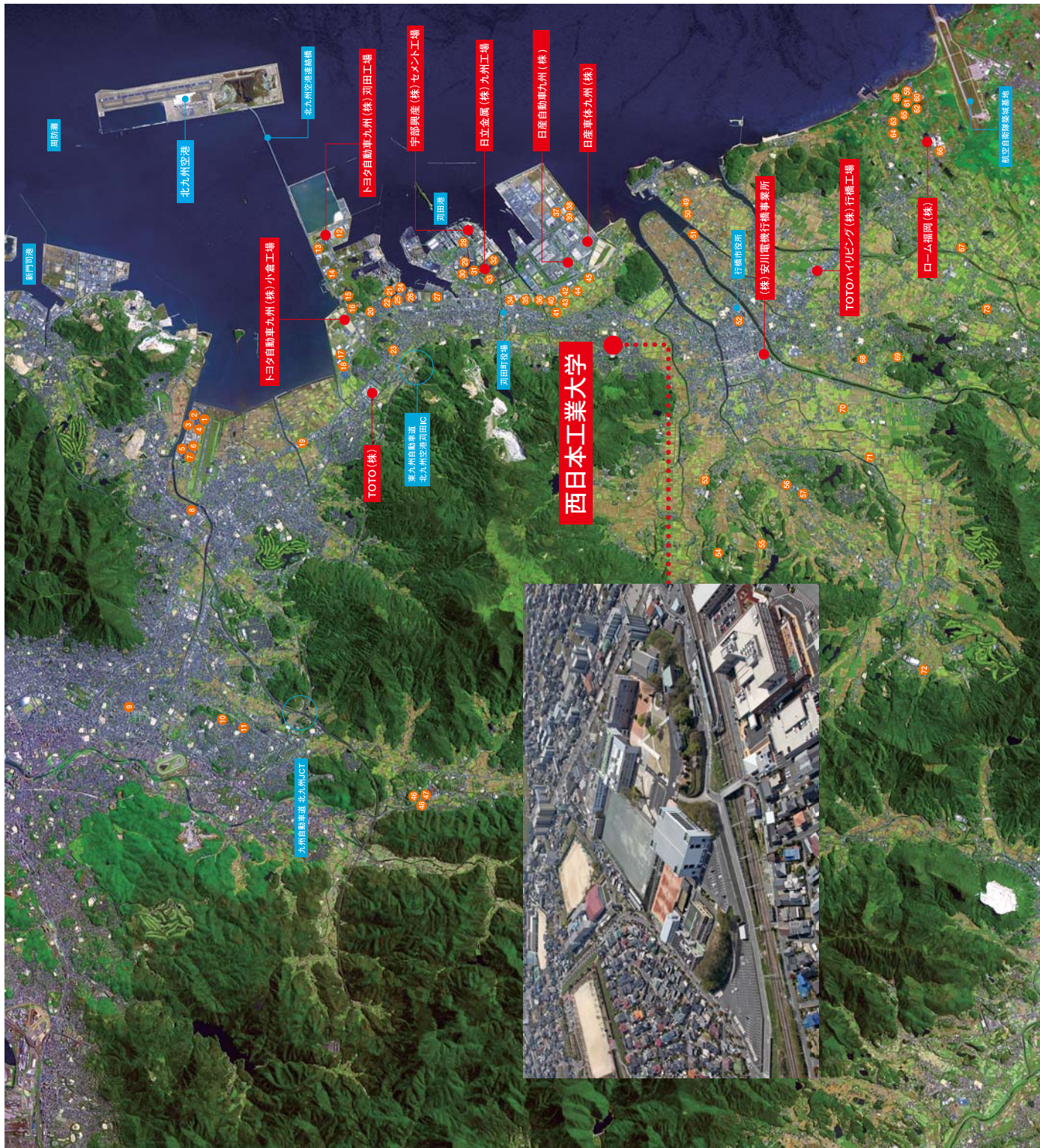
・教員組織の変更内容について

デジタルエンジニアリング学科は，当該学科の在籍学生がいなくなるまで，現行の組織，教育及び指導内容を維持する。また，当該学科の教員は平成26年度から学年進行に合わせて総合システム工学科の教育も兼務し，教育研究を担う計画である。なお，デジタルエンジニアリング学科は，主に機械工学及び電気電子工学の専門分野の教員で構成していることから，総合システム工学科における当該分野の教育や研究の強化に繋がることを期待できる。

おぼせキャンパス周辺の工業関連企業

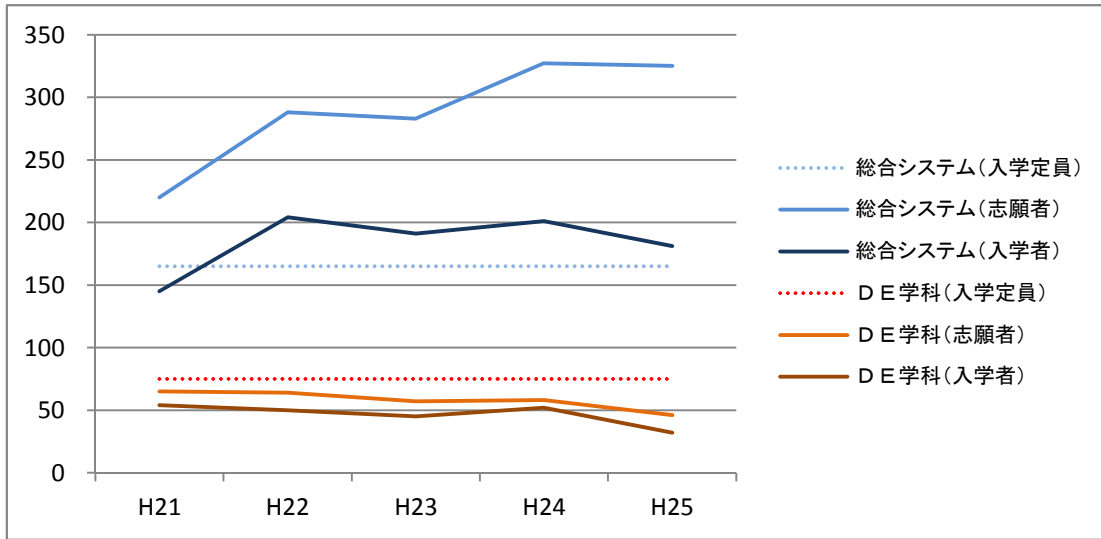
- 1 義経精密工業(株)
- 2 (株)戸畑ターレット工作所
- 3 北九州ダイカスト(株)
- 4 戸畑鉄工(株)
- 5 三島光産(株)
- 6 (株)北九州樹脂製作所
- 7 白石鉄工(株)
- 8 輝徳工業(株)
- 9 (株)電技協会
- 10 (株)杉本工業
- 11 (株)高塚機械製作所
- 12 (株)九州マルチテックテクノロジ
- 13 湘南造船(株)九州工場
- 14 (株)山崎工業
- 15 日本アルシ
- 16 (株)明和eテック
- 17 (株)九州イマセン
- 18 イナジー・オートモーティブシステムズ(株)北九州工場
- 19 (株)ニユーメディアマシ
- 20 (株)家田産業九州河田工場
- 21 (株)アイケイ・エス
- 22 (株)ロジコム北九州営業所
- 23 マグマント(株)
- 24 (株)日塔鉄工社
- 25 平和自動車工業(株)
- 26 豊御材工業(株)河田工場
- 27 三原スチール(株)
- 28 九州ホイール工業(株)
- 29 (株)三江工業
- 30 日立金属(株)九州工場
- 31 (株)佐賀鐵工所北九州営業所
- 32 (株)九州テックメタル
- 33 堀崎子(株)九州事業所
- 34 (株)北九州スリーボンD化学
- 35 二引(株)九州支店
- 36 (株)九州鉄鋼センター
- 37 (株)西洋漆料産業河田営業所
- 38 フォルシア・ニッパ(株)九州工場
- 39 凡申産業(株)
- 40 (株)協和産業 河田工場
- 41 (株)渡南会福岡営業所
- 42 (株)ファルテック
- 43 (株)ダイヤク
- 44 (有)後藤精機
- 45 (株)みまこ産業
- 46 (株)九州養熟
- 47 (株)川村製作所
- 48 朝日工業(株)
- 49 タカヤ化成(株)九州工場
- 50 (株)富士技研
- 51 (有)宮西コスモス
- 52 宮西設備(株)
- 53 タカテ化成工業(株)九州工場
- 54 (株)異次商事
- 55 (株)シンコロ製作所
- 56 九州アルファ(株)
- 57 福岡北設工業(株)
- 58 三ツ星化成(株)九州工場
- 59 (株)ニストジーケー
- 60 日本特殊塗料(株)東九州工場
- 61 三島光産(株)大型成形金型事業部
- 62 (株)H&I塗装
- 63 (株)シダタ行橋工場
- 64 住工業(株)
- 65 (株)IWIフォーム九州
- 66 日本ヒニロン(株)行橋工場
- 67 (株)深江工作所 豊津工場
- 68 (株)太平ハーネス
- 69 (有)春日プラスチック工業
- 70 塚本精工(株)
- 71 (有)ニックス
- 72 ユニフラス九州(株)
- 73 綿隆工業(株)

出典:九州産業立地情報マップ(経済産業省九州経済産業局)  
九州山口の自動車関連部品工場等一覧(九州経済調査協会)



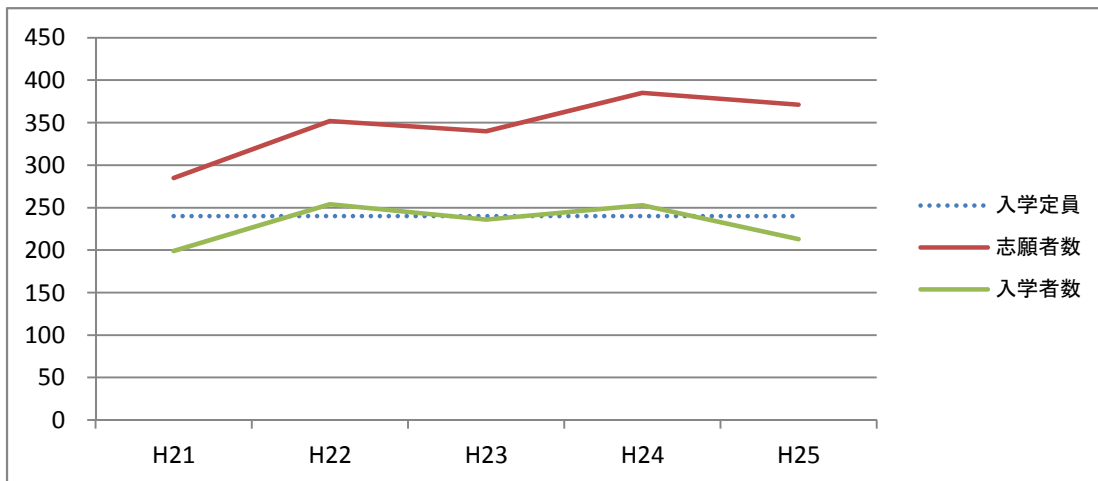
## (資料2)

### 総合システム工学科・デジタルエンジニアリング学科の過去5年間の入試動向



	H21	H22	H23	H24	H25
総合システム(入学定員)	165	165	165	165	165
総合システム(志願者)	220	288	283	327	325
総合システム(入学者)	145	204	191	201	181
DE学科(入学定員)	75	75	75	75	75
DE学科(志願者)	65	64	57	58	46
DE学科(入学者)	54	50	45	52	32
総合システム(定員充足率)	87.9%	123.6%	115.8%	121.8%	109.7%
DE学科(定員充足率)	72.0%	66.7%	60.0%	69.3%	42.7%

### 工学部の過去5年間の入試動向



	H21	H22	H23	H24	H25
入学定員	240	240	240	240	240
志願者数	285	352	340	385	371
入学者数	199	254	236	253	213
定員充足率	82.9%	105.8%	98.3%	105.4%	88.8%